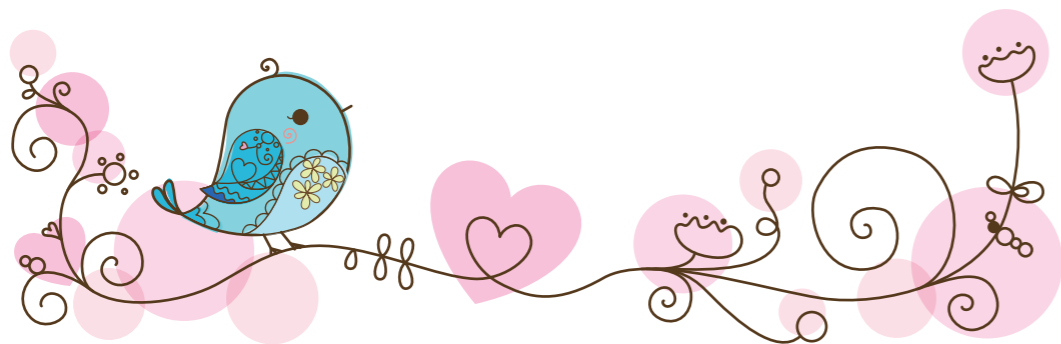




私は Xジェンダーで、 バイセクシュアル

山陰土着系女優 **松島 彩**

昨年、ようやく堂々と言えるようになりました。
私のこれまでの苦悩から
カミングアウトに至るまでを振り返ってみます。
ちょっと暗めなので明るい場所で
読んでくださいね。



数年前から、LGBTという言葉が流行りだし、性の多様性が少しずつ叫ばれるようになりました。Lはレズビアン、Gはゲイ、Bはバイセクシュアル、Tはトランスジェンダー。私はどうだろう？

男性を好きになることもあったし、女性を好きになることもあった。だから、私はバイセクシュアル？しかし、これは好きになる対象の事であって、私にわからないのは自分の性別です。体は、女だけれど、女だと言われることに抵抗感がある。だけど、男ではないし、男になりたいとも思わない。男でもなければ女でもない、そしてトランスジェンダーでもない。どの性別にも当てはまらない私は失敗作の人間なのだと自己否定を繰り返しました。

幼い頃の私は「女の子なんだから」という言葉が大嫌いでした。「女の子なんだから足を閉じて座りなさい」「女の子なんだから自分のことはワタシと言いなさい」「女の子なんだから女の子らしい服装をなさい」。そう言われるたびに大暴れ。「私は女の子じゃない！私は私だ！」しかし歳を重ねるうちに、反発にも疲れ、黙って飲み込み、さらには、自分から女の子という枠組みに入っていました。愛想笑いに磨きがかかり、拳句「あなたは笑顔が一番！」と言われるまでになりました。

女でもなく男でもない自分の正直な気持ちの行き先はいつも孤独。普通に生きていても、「男・

女」という言葉や表記をよく目や耳にします。トイレ、アンケートの男女を選ぶ項目、「彼氏いるの？」という会話、その度に心がチクチク痛むのです。この世界に生きている以上、「男・女」という概念からは逃れられないのだろうか。生まれて来る場所を間違えた。大袈裟に聞こえるかもしれないけれど、そんなちょっとした事で、自分の存在価値をどんどん見失っていくのです。

Xジェンダーという言葉に出会ったのは、2年前。大阪まで行き、こっそりLGBT勉強会に参加をしました。恐る恐る、女でもなく男でもない、そんな曖昧な私の性の話をした時に、「それ、Xジェンダーやん！」と教えてもらいました。私の曖昧な性には名前がついていたのか！絶望していた世界に、突然光が差したようでした。

昨年、Xジェンダーだと公にカミングアウトをし、いい事がたくさんありました。新聞でコラムを書かせていただき、また高校で先生向けのLGBT研修会の講師をする機会もいただきました。さまざまな性を持つ友達と出会い、孤独だったのは私だけじゃなかったんだと知りました。

しかし、今の私の最大の悩みは、この事を家族の誰にも面と向かって言えていない事です。母はいつも「早く結婚をして子どもを産んで欲しい」と言っていました。母の願いを叶えたい。私は、結婚してくれそうな男性をようやく捕まえました。しかし母に相手の男性を気に入ってもらえず、母や親族との関係は断絶してしまいました。それでも子どもを産めばきっと母の考えも変わるだろうと、子どもを作ることを考えました。しかし、女でも男でもない自分にとって、女にしかできない出産という行為に強い抵抗感がある事を、その時初めて知りました。そして、自分自身の承認欲求のためだけにした結婚生活は1年にも満たずに破綻。家族とは、離婚の報告もできずに疎遠のままです。私が普通の女だったら、大抵の人が当た

り前にやれている結婚や出産をして、家族とも良好な関係を築けていたんだろうか。幸せそうな家族とすれ違うたびに思うのです。

しかし、そう嘆きながらも、私はこれまでの人生で今、一番幸せです。カミングアウトをした事で、自分の心に正直になることができ、そんな今の自分を気に入っているからです。「女なんだから」と言われることもあります。腹は立ちません。「この人は、私を女という一面でしか見られない可哀想な人！」と心の中で思いながら、「はい、可愛くしまーす！」と鍛え上げた愛想笑いで可愛く言えるのです。家族と疎遠になり、誰にも甘えられない状況のおかげで、精神的にも経済的にも今はしっかりと自立しています。いつか大好きなパートナーを経済的に支えられるようにと、さらなる高みを目指して勉強中です。

自分の性の曖昧さからくる孤独や、それによって生じた家族との不仲が、今の私を強くしてくれています。多くの人に理解してもらおうとは思いません。もちろん母をはじめ家族にも、もう求めています。私のことを一人でも理解してくれる人がいれば、それでいい。その一人の理解者によってようやく会うことができました。その理解者とは、自分自身です。私は今、Xジェンダーも、バイセクシュアルも超カッコいい個性だと胸を張っています。空っぽだった私という風船の中に、孤独がいっぱいに膨らんで、フワフワと一人で飛んでいる。私はそれを自律のはじまりだと思っています。孤独って悪くない。だけど、まだまだ私は弱い。風船に例えたのは、いつ萎むのか、いつ割れるのか、わからないから。

どうやって死のうかばかり考えながら10代、20代を惰性で生き抜いて、ようやく30代、楽しくなってきました。自分の最大の理解者である自分自身と共に、風船のようにフワフワと、広い世界を漂いたいと思っています。

〈用語の説明〉 ○レズビアン：女性の同性愛者 ○ゲイ：男性の同性愛者 ○バイセクシュアル：両性愛者
○トランスジェンダー：身体と心の性別に違和感のある人 ○エクスジェンダー：心の性を男性・女性のいずれかとは明確に認識していない人